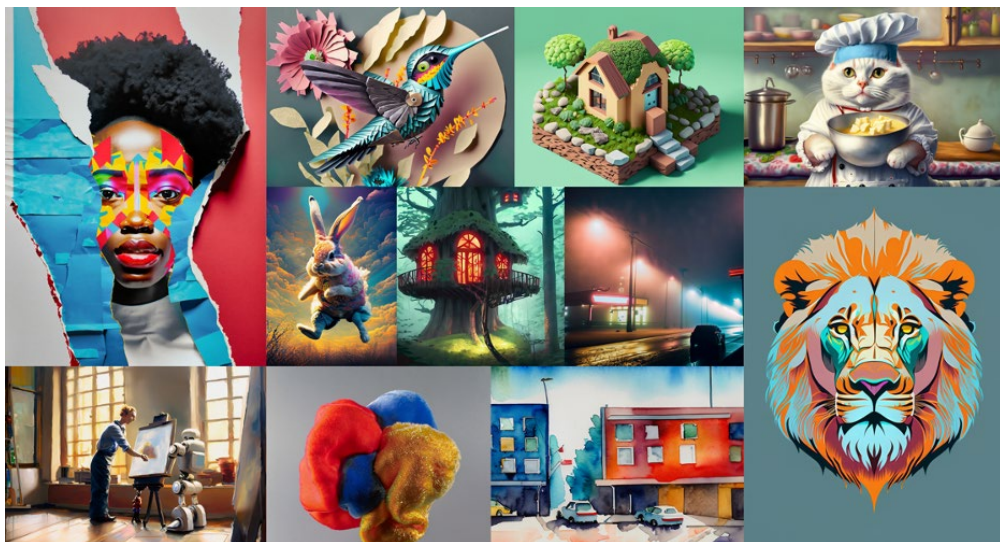




アドビ株式会社  
141-0032 品川区大崎 1-11-2  
ゲートシティ大崎イーストタワー

## アドビ、Adobe Firefly の一般提供開始と 「Adobe Firefly web 版」を発表

- アドビのクリエイティブな生成 AI「Adobe Firefly」が、ベータ版の提供を経て商用利用が可能に
- Adobe Firefly web 版が利用可能に。Adobe Firefly は、Adobe Photoshop、Adobe Illustrator、Adobe Express などの Adobe Creative Cloud にネイティブ統合
- Adobe Creative Cloud、Adobe Express のプレミアムプラン、Adobe Firefly に生成クレジットを導入
- 新しい Adobe Firefly web 版と Adobe Express のプレミアムプランが Adobe Creative Cloud に追加
- Adobe Firefly エンタープライズ版には、ブランド独自の Adobe Firefly モデル、Adobe Express エンタープライズ版、Adobe GenStudio を含む





※当資料は、2023年9月13日（米国太平洋時間）に米国本社から発表されたプレスリリースの抄訳です。

【2023年9月13日】

アドビ（Nasdaq:ADBE）（本社：カリフォルニア州サンノゼ、以下アドビ）は本日、AI によるクリエイティブな表現を、自由に探求するための新たな web アプリとして [Adobe Firefly web 版](#)を発表しました。約 6 ヶ月間のベータ版の提供を経て Adobe Firefly の機能は、Adobe Creative Cloud、Adobe Express、Adobe Experience Cloud の新たなワークフローに深く統合され、商用利用が可能となりました。

Adobe Firefly は、画像生成、テキスト効果、ベクター用の生成 AI モデルを基盤としており、日本語を含む 100 以上の言語のテキストプロンプトをサポートし、商用利用として安全性を考慮した魅力的なコンテンツを、世界中のユーザーが生成できるように設計されています。

また、[Adobe Photoshop の「生成塗りつぶし」と「生成拡張」](#)、[Adobe Illustrator の「生成再配色」](#)、[Adobe Express の「テキストから画像生成」](#)や「[テキスト効果](#)」などの Adobe Firefly 搭載機能もベータ版を終了し、Adobe Creative Cloud にネイティブ統合されます。これらの統合は、これまで以上にクリエイティブの力をユーザーに提供し、まったく新しい方法で、試行錯誤したり、アイデアを具現化し、クリエイティブな活動を行うことを可能にします。今後もアドビは、写真、デザイン、ビデオ、3D など、より多くの Adobe Creative Cloud 製品やワークフローに Adobe Firefly 機能を搭載していきます。

アドビのデジタルメディア事業部門代表 デイビッド ワドワーニ（David Wadhvani）は、次のように述べています。「Adobe Firefly で生成されたアセットは 20 億点以上におよび、生成 AI はあらゆるセグメントの顧客にクリエイティブな表現の新時代を切り開こうとしています。Adobe Firefly の驚愕的な機能と、Adobe Creative Cloud、Adobe Express、Adobe Firefly web



版、Adobe Experience Cloud の豊富なツールを組み合わせることで、ユーザーは生成 AI を活用した新しく豊かで生産的な方法で、比類のない機会を得ることができます。」

本日より、Adobe Creative Cloud のコンプリートプランおよび一部の単体プランには、Adobe Firefly web 版と Adobe Express のプレミアムプラン（有料）が含まれます。

Adobe Firefly エンタープライズ版の一般提供開始により、[Adobe GenStudio](#) と [Adobe Express エンタープライズ版](#) に画期的な生成 AI 機能がもたらされます。さらに、アドビはお客様と協力して、自社のアセットやブランド固有のコンテンツを使用して生成 AI モデルをカスタマイズできるようにしています。お客様は Adobe Firefly API にもアクセスできるようになり、独自のエコシステムや自動化ワークフローに Adobe Firefly を組み込むことができます。Adobe Firefly エンタープライズ版は、ほとんどの Adobe Firefly を利用したワークフローで生成されたコンテンツの知的財産 (IP) 補償を得る機会を企業に提供します。

---

アクセンチュア、IHG Hotels&Resorts、Mattel、NASCAR、NVIDIA、ServiceNow、Omnicom などのトップグローバル企業はすでにアドビと協力して、Adobe Firefly が効率化、コスト削減、コンテンツサプライチェーンの加速にどのように役立つかを検証しています。



## 生成クレジットの導入

アドビは、Adobe Firefly による新しい画像生成ワークフローを採用した全ての製品に生成 AI の新しいクレジットベースモデルを導入します。Adobe Firefly、Adobe Express のプレミアムプラン、Adobe Creative Cloud の有料プランが対象に含まれます。生成[クレジット](#)とは、テキストベースのプロンプト入力により、Adobe Photoshop、Adobe Illustrator、Adobe Express、Adobe Firefly 上で画像やベクター作品を生成するためのクレジットです。プランごとに定められた効果の生成をし続けるか、あるいは生成クレジット サブスクリプションパックを追加することで、継続して Adobe Firefly の機能を快適に使用することができます。2023 年 11 月以降、アドビはユーザーが追加の生成クレジットを購入できるようにする予定です。

Adobe Creative Cloud、Adobe Express、Adobe Firefly の無料版のユーザーにも、毎月生成クレジットが付与されます。各プランの月ごとの上限に達した場合、ユーザーは有料プラン（月額 680 円）にアップグレードし Adobe Firefly 機能を使ったアセット作成を継続するか、あるいは翌月にクレジットがリセットされるまで待つか選択することができます。

## 生成 AI で作成したコンテンツの信頼性と透明性

Adobe Firefly は複数のモデルで構成されており、さまざまなスキルセットや技術的背景を持つ、多様なユースケースに対応できるように構成されています。Adobe Firefly の初代モデルは、Adobe Stock の画像、一般に公開されているライセンスコンテンツ、著作権が失効しているパブリックドメインコンテンツでトレーニングされており、画像とテキスト効果に焦点を当て商用利用の際も安全性を考慮したコンテンツを生成するように設計されています。

今後の Adobe Firefly モデルでは、アドビやその他の企業が提供するさまざまなアセット、テクノロジー、トレーニングデータを活用する予定です。他のモデルが実装される場合でも、アドビは潜在的に望ましくないバイアスに対し、優先的に対処していきます。



また、Adobe Firefly で生成したコンテンツには[コンテンツクレデンシャル機能](#)が含まれています。コンテンツクレデンシャル機能は、コンテンツの名前、日付、作成に使われたツールなどの情報、および加えられた編集の内容を示し、デジタルコンテンツの「成分表示ラベル」の役割を果たします。コンテンツクレデンシャル機能にはコンテンツ認証イニシアチブ（CAI）が提供する無料のオープンソース技術が搭載されており、コンテンツの使用、公開、保存といったすべての局面においてコンテンツとの関連付けが維持されるように設計されています。コンテンツの帰属先を確認できるようにすることで、消費者がデジタルコンテンツについて十分な情報を得たうえで意思決定できるよう支援します。

## 新ソリューション「Adobe GenStudio」

生成 AI の活用によりコンテンツの企画から制作、配信までのすべてを統合し、企業のコンテンツサプライチェーンを変革する新ソリューション、Adobe GenStudio を発表しました。本ソリューションは、あらゆる企業向けの包括的な統合ソリューションであり、生成 AI 機能とインテリジェントな自動化によって、コンテンツ制作プロセスの強化および簡素化を可能にします。

## 顧客中心の AI アプローチ

アドビは、あらゆる規模の個人や企業にとって信頼できるパートナーとして、顧客中心のアプローチで AI 機能を開発、導入しています。また、アドビの AI 倫理原則に則り、商用利用にも安全に使用できるよう Adobe Firefly の設計、開発を行っており、コンテンツとデータの信頼性と透明性を確保しています。また、Adobe Firefly エンタープライズ版では、ほとんどの



Adobe Firefly 搭載ワークフローによって生成されたコンテンツについて、企業がアドビの知的財産（IP）補償を受けられる機会を提供します。Adobe Firefly で生成された[コンテンツクレジット](#)が自動的に含まれているため、Adobe Firefly を使用して生成されたすべてのアセットでコンテンツの帰属情報が確認できます。

## ■「アドビ」について

アドビは、「世界を動かすデジタル体験を」をミッションとして、3 つのクラウドソリューションで、優れた顧客体験を提供できるよう企業・個人のお客様を支援しています。[Creative Cloud](#) は、写真、デザイン、ビデオ、web、UX などのための 20 以上のデスクトップアプリやモバイルアプリ、サービスを提供しています。[Document Cloud](#) では、デジタル文書の作成、編集、共有、スキャン、署名が簡単にでき、デバイスに関わらず文書のやり取りと共同作業が安全に行えます。[Experience Cloud](#) は、コンテンツ管理、パーソナライゼーション、データ分析、コマースに対し、顧客ロイヤルティおよび企業の長期的な成功を推進する優れた顧客体験の提供を支援しています。これら製品、サービスの多くで、アドビの人工知能（AI）と機械学習のプラットフォームである[Adobe Sensei](#)を活用しています。

アドビ株式会社は米 Adobe Inc.の日本法人です。日本市場においては、人々の創造性を解放するデジタルトランスフォーメーションを推進するため、「心、おどる、デジタル」というビジョンのもと、心にひびく、社会がつながる、幸せなデジタル社会の実現を目指します。

アドビに関する詳細な情報は、web サイト (<https://www.adobe.com/jp/about-adobe.html>) をご覧ください。

© 2023 Adobe. All rights reserved. Adobe and the Adobe logo are either registered trademarks or trademarks of Adobe in the United States and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners.